

SSKS

VOL.131

結の実通信131号

特定非営利活動法人結の実

ご挨拶

理事長 小林 輝彦

今年度3回目の結の実通信となります。前回の挨拶でBCPのことを書きましたが、その後すぐにホーム・ゆい入居者の新型コロナウイルス感染があり、BCPで話し合われている内容が一部発動しました。

帰る場所のない入居者のいるホーム・ゆいは、クラスターが起きても閉鎖ができません。今回は一人一人の力で入居者の生活を守るために団結して、難局を乗り越えることができたと思います。入居者の皆さんもとても頑張りました。

2次感染を防ぐために、感染区域に入る時は防護服を着用、レッドラインで脱ぐという基本の対策を忠実に行いました。この経験は、今後のホーム運営にも活かせることでしょう。

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが2類から5類に変わることになりましたが、ホーム内で感染者が出た場合に、2次感染を防ぎながら支援を行うことは変わらないです。入居者の生活を守りながら、職員にとっても安心できる生活の場となるよう今後も努力していきます。

中期事業計画の目標の一つにグループホーム事業の質的向上があります。365日24時間安心して受け入れられる環境整備を今後も続けたいと思います。

法人目的

結の実は地域の障害がある人々や子どもたち、高齢者などに対して、必要とする福祉サービス等を提供し、社会的・経済的自立を支援するとともに、社会参加促進に関する事業を行い、障害の種類・程度に関わらず、すべての人々がゆたかに暮らせる地域社会づくりと福祉の増進に寄与することを目的としています。

グループホーム運営方針

- ① 障がいの程度にかかわらず、入居者が健康で自立した生活が営めるように支援を行なう。
- ② 入居者の個性を理解し、それぞれの入居者が今まで営んできた生活環境を尊重した支援を行なう。
- ③ 入居者の人権を擁護し、就労や社会参加等充実した社会生活が送れるように、関係施設や地域と連携していく。

法人沿革

- 1988年9月 課外グループ「生活ホーム結」設立
- 1991年4月 通所訓練の場「通所施設・結」開所
- 1994年7月 宿泊訓練「生活ホーム・結」開始
- 2001年9月 「特定非営利活動法人 結の実」認可
- 2004年4月 男性ホーム「ホーム・まな」を開所
- 2008年3月 女性ホーム「ホーム・ゆい」を開所

今年度から、障がい者虐待防止に関する取り組みがグループホームでも義務化されています。そこで、今号では、結の実監事の貞富護さんに、虐待防止に関する取り組み例を紹介していただきました。

こんにちは。特定非営利活動法人結の実で監事を務めております貞富です。私は、株式会社結PLUSの代表として介護保険事業のコンサルティング、発達障がいのあるお子様への支援事業（児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業）などを行っています。

昨今、福祉や保育の現場、家庭内での「虐待」に関する悲しいニュースが後を絶ちません。「虐待」は、社会的に深刻な課題の一つとなっています。今回は福祉の現場における「虐待」をテーマにお話したいと思います。

自分の会社や法人には、虐待をする人はいないと思っても、気づかないところで、また、見えないところで「虐待」が起こっているのが現状ではないでしょうか。では、虐待を起ささないためにどのような取り組みが必要でしょうか。私は、その対策の鍵となるのは「現場の見える化」だと感じています。私の会社や他法人での取り組みを紹介させてください。

障がい児通所施設では、保護者同伴で通所されたお子様に対して療育を提供しています。療育は個室で行われ、スタッフ1名とお子様1名が入室します。保護者は壁を隔てた空間にいますが、個室内に防犯カメラを設置しています。これにより、保護者もスタッフもリアルタイムで常時見守られる環境を整え、虐待を抑止する効果を高めています。また、防犯カメラの設置により、療育プログラムの内容やお子様の様子や反応を確認できるため、保護者はより安心感を得ることができます。

高齢者通所施設では、多数のお客様やスタッフが共に活動するため、オープンスペースとなっていますが、注意が不足することにより死角が発生することがあります。そこで、防犯カメラを導入することで、虐待を抑止する効果を得ています。また、万が一事故が発生した場合には、検証や事故予防対策にも役立ちます。



（高齢者施設でのカメラ活用例）

高齢者入居施設では、限られたスタッフが入居者様の生活を支えるため、施設自体が限定的で閉鎖的な環境になりがちです。このような環境では、防犯カメラが虐待の抑止効果を発揮することがあります。カメラを設置することで死角を最小限にし、虐待の予防だけでなく、転倒などの事故や異常の早期発見にもつながることがあります。

しかしながら、防犯カメラによる「見える化」は、虐待防止策のための有効な手段の一つではありますが、これだけでは不十分です。スタッフの定期的なストレスチェックや面談、社内でいつでも虐待通報ができる環境の整備、虐待予防のための対策委員会の設置など、複数の対策を同時に実施することで、虐待防止の効果を高めることができます。スタッフや関係者に対して、虐待に関する教育やトレーニングを実施することも重要です。同時に、お客様のプライバシーを配慮することも極めて重要です。そのため、お客様のプライバシーを考慮した設置方法はもちろん、日々のサービス提供においてお客様やご家族様の同意を得て、「見える化」を行うことが必要です。

100%の虐待防止策は存在しません。虐待を防止するためには、虐待防止に対する意識を高めることが大切であり、一人ひとりが責任を持って取り組むことが求められます。虐待を絶対に許さないという姿勢を持ち、日々の業務において、虐待を未然に防止するための対策を実施していくことが必要です。そして会社や法人の組織全体で持続可能な対策の一つひとつ形にしていくことが必要です。今後も関心と意識を高く保ち、福祉の現場に携わり、取り組んでいきたいと思っております。

🎄🎄 まなクリスマス会 🎄🎄

12月21日ホーム・まなクリスマス会を行いました。

11月に、まな入居者で新型コロナウイルスに感染した方が複数名いて、12月にも体調不良者がいたり、なんだか落ち着かない中での開催でした。それでも、ささやかながらお楽しみの時間をつくろうと入居者全員がそろそろ日にごちそうとデザートを用意してメリークリスマス！！🍷🎅

ムードメーカーのNさん。「ジングルベル、ジングルベル」と楽しそうに歌いながら、ドンドンと足踏みでリズムを取ると、もう、みんなクリスマスモードでした。



音楽が大好きなYさんもリズムを取りながら笑顔いっぱいです。あまのじゃくなRさん。本当はケーキ大好きなのに「俺は絶対食べないよ」と話しています。でも、すぐにパクッとおいしそうに、あっという間に食べていました。

食べるのが大好きなGさん。スタッフ手づくりのごちそうを満喫して満足そうでした。デザートに目がないTさんはお仕事から帰ってすぐに、いつもと違う雰囲気気が付いたようで、落ち着かない様子でした。ごちそうとデザート見ると納得したようで、ゆっくりと味わっていました。マイペースなMさんは、素っ気ない様子に見えましたが、鼻歌を歌って楽しそうにしていました。

🍷🍷 ホーム・ゆいクリスマス会 🍷🍷

12月21日ホーム・ゆいクリスマス会を開催しました。

今年のクリスマス会メインメニューのお肉🍖を中心にデザート、ケーキと皆さんのご希望のメニューになりました。♡♡

クリスマスソングがかかると、いつも下を向いている M さんが、みんなの歌声に耳を傾けてニコニコ笑顔😊。いつも食べる順番にこだわるNさんは今日最初に食べるメニューはピザ！そしてサラダ、ケーキと味わっていました。おいしかったのかな？



S さんもいつもデザートは食事の最後に食べてますが、今日だけはデザートから食べたいとアピールしていました。

皆さん1番楽しみにしていたのはやっぱりクリスマスプレゼント！！届くまで「プレゼント貰えるかな？」と不安になった方もいましたが、貰った後は、「サンタさん来たね」「プレゼントもらえたよ」なんて声も聞こえてきました。Yさんは犬のぬいぐるみをプレゼントにもらいました。Yさんのお部屋ぬいぐるみでいっぱいなのですが、今回の新入りにタロウと名付けて、大事にしている様子です（写真左 Yさんとタロウ）。

4回目となるホーム職員紹介。今回は、まな非常勤職員の中村光さんです。

はじめまして、昨年の6月から働かせていただいている中村光と申します。

私は昨年3月に広島から東京に引っ越してきました。成瀬中央橋から桜を見て感動していたのを覚えています。あれから早1年、まもなく同じ季節を迎えます。今こうして縁あってまなで働かせていただき、職員のみなさん、そして入居者のみなさんに優しくしてもらいながら1年を無事に過ごすことができました。

広島では全寮制の学校で舎監として働いていました。起床から登校、下校から就寝まで生徒1人1人に声をかけながら寮生活をサポートするのが主な仕事でした。事務的な仕事もありますが、掃除や洗濯ができているか、ちゃんとご飯を食べているか、時には朝学校に行けない生徒と昼まで一緒に雑談しながら午後からの登校に向けて背中をそっと押してみたり、夜間風邪を引かないようにお腹出して寝ている生徒のふとんを掛けて回ったりなど、「見守りそして関わる」を軸に置いた仕事で、私の性に合っていました。

東京に来て、慣れない環境で生活をスタートするのは大変でしたが、まなで「見守りそして関わる」を軸に置いた仕事をさせてもらえたおかげで、東京暮らしも無事に1年を迎えることができました。

ちなみに広島では山奥の学校で生活をしていたため、イノシシやシカはもちろんのこと、冬にはキツネも普通に歩いている地域でしたので、東京での暮らしは180度変わったかのような印象を受けたのを覚えています。

実はこの3月で妻の転勤に合わせて再度広島に戻ることになりました。まなの入居者のみなさんと仲良くさせていただいたので、とても寂しいですが、ここでの経験を次に活かしていきたいと思います。

寄付 1名 （2022年12月6日～2023年2月5日）

明滝光子

2022年度 更新会員 60名 （2022年12月6日～2023年2月5日）

杉本わか

2022年度 新規会員 2名 （2022年12月6日～2023年2月5日）

（順不同・敬称略）

☆ご支援まことにありがとうございました☆

事務局からのお知らせ

- ☆ 2022年度第4回理事会が2023年1月28日に開催されました。
- ☆2022年度第2回結の実虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会が、2023年1月28日理事会開催前の時間帯に開催されました。
- ☆ 2022年度上半期内部監査が2022年12月22日に行われました。

特定非営利活動法人結の実の法人理念や事業運営方針の趣旨にご賛同いただき、ご支援して下さる方々の入会及び寄付をお願い申し上げます。

年会費 2000円

郵便振替口座 00110-2-355729

口座名義

特定非営利活動法人結の実

- * 郵便振替用紙に、お名前・住所・電話番号・〇〇年度会費として、のご記入をお願いします。
- * 入会時期に関わらず、会員資格は年度ごとの更新となります。

結の実通信 131号

『編集』 特定非営利活動法人結の実 事務局

〒194-0046 東京都町田市西成瀬 1-39-13

TEL/FAX : 042-725-8693

E-mail : yuinomi@star.ocn.ne.jp

ホームページ <http://yuinomi.com>

『発行』 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17 ヴェルドゥーラ祖師谷 102号室

TEL : 03-6277-9611 FAX : 03-6277-9555 定価 50円